東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年9月2日

キヤーマ

　親愛なるムスリムの皆様。この世界に存在する全てのものは、ある日、大混乱に陥り、全ての人間やあらゆる生物が死に絶え、そして死者がすべて復活します。そう、これを「キヤーマ」というのです。キヤーマは、あの世での生の始まりです。キヤーマに続くのは、裁き、審判、天国もしくは地獄です。来世を信じることは、キヤーマと、その後に起こることをすべて信じることなのです。
　クルアーンでは、キヤーマが必ず起こるであろうこと、これに関しては疑問を挟む余地のないこと、突然に起こることを明らかにしています。ただし、キヤーマの時に関しては、アッラー以外の誰も、その知識を持ち得ないことも述べられています。ジブラーイールの、「キヤーマはいつ起こるのか」という問いに対し、預言者ムハンマドは「尋ねられた者は、尋ねた者以上の知識を持たない。」という形で答えられたことは、預言者たちですら、このことに関する知識を持っていないことを明らかに示しています。だから、現代における「キヤーマはいつか」という推測などには、全く意味がないのです。

　親愛なるムスリムの皆様。キヤーマは、二つの場面をもって実現します。クルアーンの表現を借りるなら、「ラッパが吹かれると」（集団章第 68 節）激しい揺れが起こり、「天が裂け割れ」（割れる章第 1 節）「諸星が落ち」（包み隠す章第 2 節）「大洋が沸きたち、溢れる時」（包み隠す章第 6 節）「天が溶けた銅のようになる日、山々は梳いた羊毛のようになり」（階段章第 8～9 節）ます。「凡ての哺乳する者は、哺乳することを忘れ、凡ての妊婦はその胎児を流し、また人々は酔わないのに、酔いしれたように見えるであろう。」（巡礼章第１～2 節）「月は蝕けり」（復活章第 8 節）「その日人間は『どこに避難しようか。』と言う。」（復活章第 10 節）「ラッパが吹かれると、天にあるものまた地にあるものも、アッラーが御望みになられる者の外は気絶しよう。次にラッパが吹かれると、見よ、かれらは起き上って見まわす。」（集団章第 68 節）
　「凡ての人間を、その導師と共に（審判のため）召集する」（夜の旅章第 71 節）その日、「かれらは目を伏せて、丁度バッタが散らばるように墓場から出て来て、召集者の方に急ぐ。不信心者たちは言う。『これは大難の日です。』」（月章第７～８節）「34．人が自分の兄弟から逃れる日、自分の母や父や、また自分の妻や子女から（逃れる日）。その日誰もかれも自分のことで手いっぱい。（或る者たちの）顔は、その日輝き、笑い、且つ喜ぶ。だが（或る者たちの）顔は、その日埃に塗れ、暗黒が顔を覆う。」（眉をひそめて章第３４～41 節）
　親愛なるムスリムの皆様。人々が、この世界における振舞いによって価値付けをされ、天国もしくは地獄に送られるキヤーマの日、わたしたちの顔が輝き、喜びに溢れているように、私たちの生き方をもう一度見直してみましょう。今日のフトバを、次の章句によって締めくくりたいと思います。「（行いを記録した）書冊が（前に）置かれ、犯罪者がその中にあることを恐れているのを、あなたがたは見るであろう。かれらは言う。『ああ、情けない。この書冊は何としたことだ。細大漏らすことなく、数えたててあるとは。』かれらはその行った（凡ての）ことが、かれらの前にあるのを見る。あなたの主は誰も不当に扱われない。」（洞窟章第 49 節）